

組織の強化・拡大  
公共交通を守り、労働条件の改善  
平和な世界と日本の実現を

組合員・家族のみなさん。  
そして、JRで働くすべて  
の皆さん。新年あけまして  
おめでとうございます。

新型コロナウイルスが2  
類から5類となって以降、  
インバウンドが戻り、人の  
移動が日常的になりました。

関西では、観光地や大阪・  
関西万博に多くの人が訪れ、  
JR西日本会社も第二四半期  
で過去最高益となりました。

ロシアのウクライナ侵略  
から約4年が経過し、パレ  
スクナとイスラエル紛争を  
はじめとした複数の紛争が  
進行中です。アメリカのト  
ランプ大統領によるの関税  
問題で輸出の鈍化やコスト  
増加が懸念されています。

企業は、莫大な利益を内  
部留保に回すのではなく、  
「労働者に還元せよ」との  
言葉が独り歩きしては過労死が  
なくならな

組合員・家族のみなさん。  
そして、JRで働くすべて  
の皆さん。新年あけまして  
おめでとうございます。

新型コロナウイルスが2  
類から5類となって以降、  
インバウンドが戻り、人の  
移動が日常的になりました。

関西では、観光地や大阪・  
関西万博に多くの人が訪れ、  
JR西日本会社も第二四半期  
で過去最高益となりました。

ロシアのウクライナ侵略  
から約4年が経過し、パレ  
スクナとイスラエル紛争を  
はじめとした複数の紛争が  
進行中です。アメリカのト  
ランプ大統領によるの関税  
問題で輸出の鈍化やコスト  
増加が懸念されています。

企業は、莫大な利益を内  
部留保に回すのではなく、  
「労働者に還元せよ」との  
言葉が独り歩きしては過労死が  
なくならな

**組織の強化・拡大**  
**公共交通を守り、労働条件の改善**  
**平和な世界と日本の実現を**

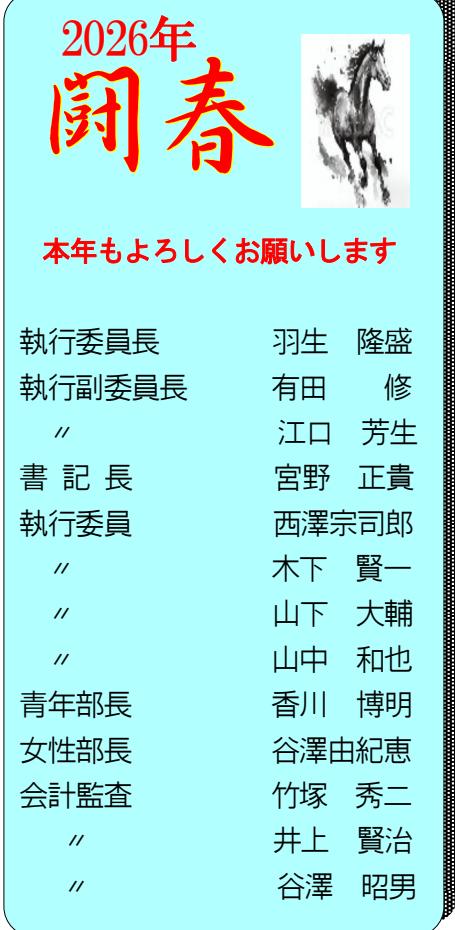
国労近畿地方本部 執行委員長 羽生 隆盛

流れを、中小企業を含めて  
運動にしていくことが求め  
られています。

昨年、高市首相は、「台  
湾有事」は日本が米国と共  
に中国への武力行使が可能  
となる「存立危機事態」に  
該当すると答弁し、日中関  
係は極度に悪化しています。

また、高市首相は、厚生  
労働大臣に「労働時間規制  
の緩和」の検討を指示しま  
した。現行の時間外労働の  
上限規制は、過労死認定ラ  
インであり、これを緩和す  
ることは、「働き方改革」の  
逆行となり、断固反対しな  
ければなりません。

臨時国会では、企業・団  
体としての「働いて  
働いて働いて」という発言  
が、「新語・流行語大賞」  
に選ばれたことに対し  
て、過労自殺の遺族ら  
が、「こんな言葉が獨り歩きしては過労死が



の提案があり、一人乗務の  
運転士では運転中に車内での  
暴力行為や迷惑行為に対  
応できません。また、南海  
トラフ地震が発生すれば、  
利用者の命と安全を守る行  
動が、運転士一人では限界  
があります。

現場労働者が、安全で安  
心して業務ができることが、  
利用者の命と安全を守る事  
に繋がり、職場での闘いが  
益々重要となっています。

JR貨物会社は、2025  
年度年末手当で、国労要求  
から大きく乖離した低額回  
答を行いました。これまで  
も経営の厳しさを強調し、  
過去最高益を計上した時も、  
超低額回答を繰り返してき  
ました。社員は、厳しい要  
員状況の下で安全・安定輸  
送の確保に奮闘しています。

また、輪軸不正問題などで、  
失墜した信頼回復に向け努  
力を続けています。社員に  
経営責任を転嫁し、社員儀  
式の経営姿勢に、将来展望  
が見いだせず、退職を選択  
する若手社員が後を絶ちま  
せん。職場での闘いの強  
化でJR貨物会社の姿勢を是  
正して行くことが重要です。

地域公共交通活性化再生  
法の改正法が成立しました  
が、地方ローカル線が、切  
り捨てられようとしていま  
す。昨年、近畿地方本部も  
することを願っています。

加古川線の視察を行いま  
した。ネットワークとして、  
鉄道駅を中心とした交通政  
策、地域の足として鉄道を  
どう残すかという議論が必  
要です。

あらゆる問題を組織拡大  
運動に結び付け、一人一人  
の要求を大切にし、運動を  
広げていくことが必要です。  
26春闘では、ストライ  
キを背景に、すべての労働  
者の労働条件改善、大幅賃  
上げ獲得、国民的課題の要  
求解決に向け運動を強化し  
なければなりません。

今年は午年であり、平和  
を願つて馬の故事から、新  
しい年が「帰馬放牛（きば  
ほうぎゆう）」の世へ前進

